

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

この記事の範囲 「うつろひたる菊」の後半、明け方に門をたたく場面から末尾までです。九月の文箱のくだりから通して解きたい人は「うつろひたる菊 テスト対策問題」のほうへ。

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この場面の山は「あくる」の掛詞、反語の係助詞「かは」と係り結び、重要語「つとめて・ことわりなり・ことなしふ」、そして「うつろひたる菊」にこめた心**です。

あらすじ＝夫の兼家がほかの女のもとへ通っていると知った作者は、二、三日して明け方に門をたたく音がしても、いやでたまらず門を開けさせない。兼家はそのまま「例の家」＝町の小路の女の家へ行ってしまう。翌朝、作者はこのまま黙ってはいるまいと思ひ、「嘆きつつひとり寝る夜のあくる間は…」と恨みの歌をいつもより念入りに書いて、色あせた菊にさして贈る。ところが兼家の返事は「急な用ができて帰った」という言い訳と、「真木の戸もおそくあくるはわびしかりけり」と受け流す返歌ばかり。悪びれもせず平然とした夫の態度に、作者の不快はいっそう深まる。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

二三日ばかりありて、^① 曉方に、門をたたく時あり。^② さなめりと思ふに、憂くて、^③ 開けさせねば、^④ 例の家とおぼしきものしたり。

^⑤ つとめて、^⑥ なほもあらじと思ひて、

^⑦ 嘆きつつ^⑧ ひとり寝る夜の^⑨ あくる間はいかに久しきものと^⑩ かは知ると、例よりはひきつくるひて書いて、^⑪ うつろひたる菊にさしたり。

返り言、「あくるまでも^⑫ ころみむとしつれど、とみなる召し使ひの来あひたりつればなむ。^⑬ いとことわりなりつるは。げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸も^⑭ おそくあくるはわびしかりけり」とあり。さても、いとあやしかりつるほどに、^⑮ ことなしびたり。

語注 さなめり＝そうであるようだ。憂し＝つらい。いやだ。情けない。例の＝いつもの。おぼし＝～と思われる。ものす＝行く・来る・いるなどを、はつきりずにさす語。ここは「行った」。なほもあり＝そのまま何もしないでいる。寝(ぬ)＝「ぬ」と読む。寝る。ひきつくる＝念入りに整える。体裁よく書く。とみなりだ。にわくだ。来あふ＝ちようどやって来る。げにやげに＝なるほどなるほど。まったくそのとおり。真木＝杉や檜(ひのき)などの立派な木。「真木の戸」はその板った戸。わびし＝つらい。やりきれない。あやし＝不審だ。腑に落ちない。※「曉方」「例の家」「つとめて」「うつろふ」「ころみむ」「ことわりなり」「ことなしふ」味、および「さなめり」の成り立ち・「つつ」「寝る」の文法・「あくる」の掛詞・「かは」の働きは、それを答える問題があるので、ここでは示さない。※作者＝藤原兼家。この場面より前に、兼家が「町の小路の女」のもとへ通っていることを、作者は人をつけさせて確かめている。

A 語句の意味と読み (1～6)

- (1) ①「暁方」の読みを現代仮名遣いのひらがなで書け。また「暁」はいつごろを指すか書け。
 (2) ⑤「つとめて」の意味を書け。
 (3) ⑪「うつろひたる菊」の「うつろふ」は、ここではどのような意味か書け。
 (4) ⑫「こころみむ」の「こころみる」の意味を書け。
 (5) ⑬「いとことわりなりつるは」の「ことわりなり」の意味を書け。
 (6) ⑮「ことなしびたり」の「ことなしぶ」の意味を書け。

B 文法 (7～13)

- (7) ②「さなめり」を、もとの形にもどして文法的に説明せよ。
 (8) ③「開けさせねば」の「させ」と「ね」を、それぞれ文法的に説明せよ。
 (9) ⑥「なほもあらじ」の「じ」の文法的意味と活用形を書け。
 (10) ⑦「嘆きつつ」の「つつ」の品詞と、ここでの意味・用法を書け。
 (11) ⑧「ひとり寝る夜」の「寝る」の品詞・活用の種類・活用形を書け。
 (12) ⑨「あくる間」の「あくる」には二つの意味が掛けられていると説明される。掛けられている二語を漢字で書き、それぞれの意味を書け。
 (13) ⑩「かは知る」の「かは」の働きを答え、結びの語とその活用形も書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ② 「さなめり」の「さ」は、どのようなことを指しているか書け。

(15) ③ 「開けさせねば」とあるが、門を開けさせなかったのは誰か。また、門をたたいていたのは誰か。

(16) ④ 「例の家とおぼしき所にものしたり」の「例の家」とはどこを指すか。また「ものしたり」の主語は誰か。

(17) ⑬ 「いとことわりなりつるは」は、誰が誰に対して述べた言葉か書け。

D 口語訳 (18～21)

(18) ②③をふくむ「さなめりと思ふに、憂くて、開けさせねば」を口語訳せよ。

(19) ⑦⑧⑨⑩をふくむ和歌「嘆きつつひとり寝る夜あくる間は久しきものとかは知る」を口語訳せよ。

(20) ⑫をふくむ「あくるまでもこころみむとしつれど、とみなる召し使ひの来あひたりつればなむ」を口語訳せよ。

(21) ⑭をふくむ和歌「げにやげに冬の夜ならぬ真木の戸もおそくあくるはわびしかりけり」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ① 「暁方」に門をたたく音がしたとあるが、作者が門を開けさせなかったのはなぜか。心情にふれて書け。

(23) ⑥ 「なほもあらじと思ひて」とあるが、作者はこのあとどうしたか。本文に即して書け。

(24) ⑪ 「うつろひたる菊」に歌をさして贈ったのはなぜか。菊のようすが何を表しているかにふれて書け。

(25) ⑮ 「ことなしびたり」とあるが、兼家のどのような態度か。それを見た作者の心情もふまえて書け。

F 文学史 (本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) この文章の出典『蜻蛉日記』の作者名と、日記文学史の上でどのような位置にある作品かを書け。

(27) ⑦⑩をふくむ和歌「嘆きつつひとりの寝る夜の…」は『小倉百人一首』にも選ばれている。そこでの作者の呼び名を書け。

(28) ⑭の返歌をよこした夫の名を書き、その人物について簡単に説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ ①「あくる」は掛詞。⑨は「明くる（夜が明ける）」と「開くる（戸が開く）」。

漢字二つを書けるようにしておく。※ただし、掛詞は兼家の返歌のほうに見て、作者の歌は「明くる」一語と説明する立場もある（当サイトの解説記事はその立場）。お使いの教科書の説明に合わせることを。②「かは」は反語。⑩「かは知る」の結びは連体形「知る」。「おわかりですか、いや、おわかりにはなりませんまい」まで書いて満点。ふつうの疑問で訳すと減点。③語の意味は「つとめて＝翌朝」「ことわりなり＝もっともだ」「ことなしぶ＝何事もなかったようにふるまう」の三つが最頻出。⑤⑬⑮でまとめて確かめておく。